

2. 火山の概況

(平成 15 年 11 月 27 日 ~ 平成 15 年 12 月 3 日)

期間中、5 火山の火山活動度レベルに変化はなかった。浅間山では地震がやや多い状態が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発であった。桜島では噴煙活動が継続した。

その他の火山については、三宅島では噴煙活動が継続した。福徳岡ノ場では変色水が確認された。薩摩硫黄島では微動が発生した。諏訪之瀬島では噴火があった。

< 期間外 >

樽前山では地震が一時的に多くなった。

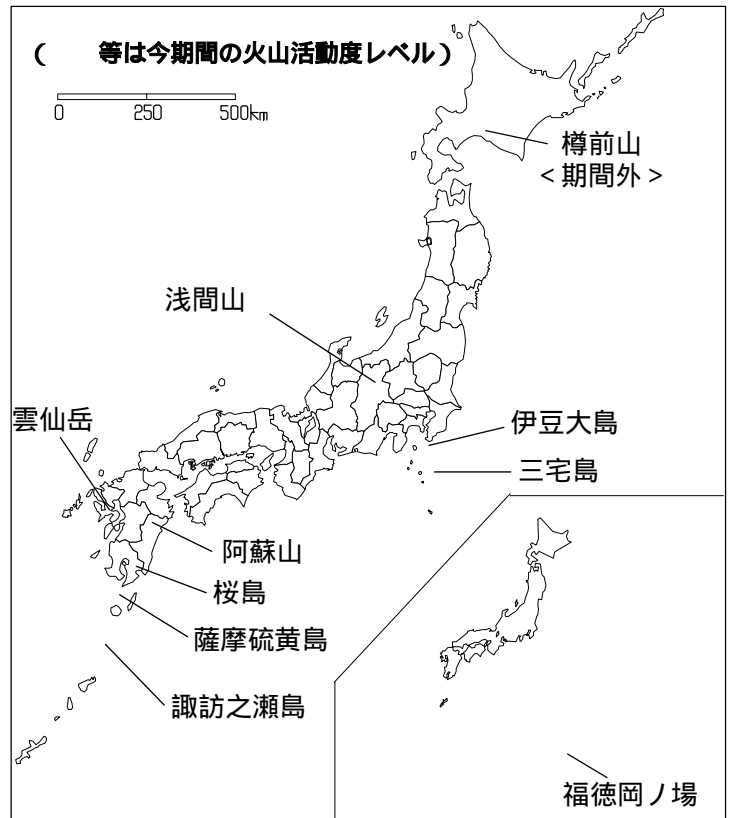


図 1 記事を掲載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山	伊豆大島	阿蘇山	雲仙岳	桜島	樽前山	富士山	三宅島	伊豆大島	噴火浅根	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル
50	12/ 4-12/10															
49	11/27-12/ 3															
48	11/20-11/26															
47	11/13-11/19															
46	11/ 6-11/12															
45	10/30-11/ 5															

注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に変化があった火山
- ：前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- ：その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字：火山活動度レベル

注 2

本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

樽前山 [地震] < 期間外 >

12月4日23時頃から体を感じない微小な地震が増加し、翌5日09時までの回数は106回となった。いずれも樽前山ではよくみられる山頂の溶岩ドーム直下の浅部(海抜付近)で発生した地震である。なお、地震が多い状態となったのは一時的で、5日06時以降は1時間あたり5回程度に減少している。1日あたりの地震回数が100回を超えるような活動は、2001年8月12日(111回)以来である。この地震活動に関して、火山性微動の発生はなく、噴煙等の表面現象にも変化はなかった。

浅間山 [地震・微動・熱] レベル： (やや活発な火山活動)

6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、徐々に回数減ってきているものの今期間もやや多く、1日あたり19~53回観測された。また、振幅の小さい微動は28~30日に各2回、合計6回観測された(前期間は1回)。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測された。

伊豆大島 レベル：（静穏な火山活動）

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなかった。

三宅島 [熱・噴煙・地震]

12月2日に気象庁が大学合同観測班と共に行った上空からの観測¹⁾では、火山ガスを含む青白い噴煙が東山麓へ流下していた。白色の噴煙は火口全体から噴出していた。赤外カメラによる観測では、火口内の最高温度は220であった（前回（11月12日）の観測時も220）。なお、二酸化硫黄の放出量観測は、三宅島上空の気象条件が悪く実施できなかった。

監視カメラによる噴煙の観測では、白色の噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上800mであった。

振幅の小さいやや低周波の地震は、12月3日10時台に20回とまとまって観測され、当日の日回数が67回とやや多かったのを最高に、1日あたり14~67回とやや多い状態で推移した。但し、これらの地震活動に伴ってその他の観測データに特に変化はみられなかった。

GPSによる地殻変動観測では、今年6月頃から再び島の収縮傾向を示している。

1) 陸上自衛隊の協力による。

福徳岡ノ場 [変色水]

11月29日に海上保安庁第三管区海上保安本部が行った上空からの調査によると、福徳岡ノ場付近の海面に幅約5mの白みがかった緑色の変色水が湧出し、西北西へ長さ3km程度蛇行して広がり、末端では幅が500~800m、色が黄緑色となっているのが確認された。変色水の確認は11月5日以来である。

福徳岡ノ場は、東京の南約1,200kmにある南硫黄島の北東約5kmの海底火山である。20世紀中には1904~1905年、1914年、1986年の噴火で火山島を出現させたが、いずれも海水に浸食されて消滅している。その他、軽石の浮遊や、しばしば変色水が確認されるなどの活動が続いている。



図2 福徳岡ノ場 11月29日に確認された変色水の様子（海上保安庁第三管区海上保安本部撮影）
（左）湧出点付近の拡大。幅約5mの白みがかった緑色の変色水が湧出している。
（右）変色水域全体。手前に向かって、長さ3km、最大幅800m程度に黄緑色に広がっている。右奥に見える島は南硫黄島。

阿蘇山 [熱・地震・微動] レベル：（やや活発な火山活動）

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口内の状況は、11月28日に実施した現地観測によると、見かけ上の湯だまりの面積は約5割となっており、減少傾向が続いている。湯だまりの色は乳緑色で、湯だまりの中央部付近で噴湯現象が確認された。湯だまり表面の温度の最高は81と依然高い状態が続いている（前回の観測時（11

月 26 日) は 79)。また、南側火口壁の温度の最高も 362 と依然高い状態であった(前回の観測時は 402)。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上 400m であった(前期間は少量・白色で最高高度は 500m)。

地震や微動の発生状況は、孤立型微動の期間中の発生回数が 1,698 回(前期間は 1,814 回)と多い状態が続いた。火山性地震は、A 型地震の回数が 8 回(前期間は 10 回)、B 型地震の回数が 8 回(前期間は 14 回)と低調であった。

GPS 等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

雲仙岳 レベル：(静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

桜島 [噴煙] レベル：(比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間は噴火 1 回(爆発))。噴煙活動は継続しており、灰白色の噴煙が最高で火口縁上 600m(灰白色)まで上がるのが観測された。鹿児島地方気象台(南岳の西南西約 11km)では降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

薩摩硫黄島 [微動]

前期間に引き続き噴火はなかったが、連続微動が 11 月 29 日～12 月 1 日に発生した。

噴煙の状況は、白色・少量の噴煙が最高で火口縁上 600m まで上がった(前期間は白色・ごく少量で最高 300m)。

諏訪之瀬島 [噴煙・降灰・微動]

期間中、爆発はなかった(前期間も爆発なし)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、11 月 28 日～12 月 1 日に火山灰を含む噴煙が上がり、11 月 29 日～30 日に集落(御岳の南南西約 4 km 付近)で降灰があった。

連続微動が、11 月 26 日(前期間)～30 日にしばしば発生した。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 659 号 (1 日 2 回発表)	27 日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第 672 号	3 日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第 29 号	28 日 13:30	火山活動がやや活発(孤立型微動が引き続き多い、中岳第一火口の熱的な状態が高い)。火山活動度レベルは 2。